

みうらトーク&トーク 令和元年度第2回

日 時

令和元年8月2日(金)

18時30～19時30分

参加者

三浦市内の小中学校でPTA活動
をしている有志

テーマ

学校教育ビジョン案に対する疑問
と提案



<意見交換・概要>

市長

皆さんこんばんは。今回のテーマ「学校教育ビジョン」について率直なご意見をいろいろといただいて、今後の参考にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市民

今回トーク&トークの申込みをさせてもらいましたが、今回は市P連としてではなく、市内でPTA活動をしている有志としての申込みです。市P連の団体としての申込みではないことを皆さんご承知おきいただきたいと思います。

先月、教育長と教育総務課長のお二人が、市P連の人たちに対してここで説明会を一度やっていて、私がそこに出席して、ビジョン案について説明していただきました。ビジョン案は学校教育という立場からなのですが、私たちがPTAの活動をしていると、学校というのは学校教育の現場だけではなく地域の拠点としての意味合いもすごく強いと感じますし、これは今日参加しているメンバーのほとんどだと思います。学校教育という視点だけではなくて、いわゆる市民生活、それこそ防災の面だったり、あるいは市民協働であったり、私はPTAは学校と保護者の市民協働の現場だと思ってるんです。そういう意味でいうと、地域の人が学校を現場にして、いわゆる公的な関わる場としての意味合いも強いなと思っています。そういったことから、今日市長に来ていただいて、しかも参加者には歴代の市P連の会長も結構おり、地域との繋がりとの観点から意見交換ができればと思っています。参考までに皆さんにお配りしたのは、私が一個人としてパブリックコメントに対して出した意見です。今日はせっかく市長と教育長という一般行政と教育行政のそれぞれのトップに来ていただいているいい機会なので、お二人の思いも含めて意見交換ができればと思っています。

市長

この場は、私が、市長が市民の皆さんと直接市の課題についてお話し合いをし、それを

政策に反映させるというものです。なので、私が中心で、教育長はサブとなります。

今は、教育ビジョン案をお配りして、市P連にお話をしたくらいで、学校にはもちろんお話をしていますが、これから地区懇談会を開催したりとか、いろいろな仕組みづくりやスケジュールリングをしていますので、全体的に市の政策として公表する前の段階です。ただ、このビジョン案を出しただけで、パブリックコメントなんかも結構意見をいただいて、三浦市にとって大変大きな出来事というか、これからの重要な方向性を決めなければいけないので、いろんなご意見があると思うんですけど、それを整理しながら取り組ませていただきたいと思います。

教育委員会の制度が変わって、例えば教育の条件整備などについて、市民の代表である市長と教育委員会の連携を強化する法改正がされて、総合教育会議というものができました。教育長も教育委員の中から選ばれていたのですが、市長が教育長として任命するようになりまして、総合教育会議の長は市長がやるということになりました。全国でも同じ仕組みになっていますので、もう新制度にほぼ移行していると思います。三浦市は前教育長の時代に先行して新しい制度に移行しています。

そんな中で、中学生は単クラスにしてはいけないというのがあったので、中学校を4校から3校にしました。ただ、小学校の適正化というのは、小学校は各地域との関わりもあるのでどうしようかということ、中学校の再編が終わってすぐに準備をして教育委員会の中でもう2〜3年の間ずっと検討していたんですけど、一定の方向性はもう出さなければいけないですし、剣崎小学校では子どもの人数がぐっと少なくなった時期もありますし、将来的に、ここ数年の間にまた一桁の人数になるんじゃないかと心配されていますので、教育委員会として市民の皆さんにお示しする基本的な考え方というのを、今回示させていただいた次第です。これに全てが網羅されているわけではなくて、子どもたちのことを考えた場合に複数学級のほうがいいだろうというご意見も、以前小学校適正規模に関するアンケートをしたときに多かったということもあって、小学校も複数学級を目指そうとなりました。これは国の、文科省の考える標準規模でもあります。教育委員会としては、この方針についていろいろとご意見をいただいて、具体的に詰めていこうと考えております。收拾がつかなくなる可能性もありますので、年限を令和7年までと決めて、もちろん遅れたり早まったりということはあるかもしれませんが、これから進めていきます。パブコメについても、皆さん類似した意見も多いんですが、課題をぶつけていただいているものも結構あります。少人数学級というのは本当に大事なんだと、子どもたちのことを考えたら少人数学級のほうがいいんじゃないかと、そういったご意見もたくさんありますし、逆に、子どもたちにとっては、いじめだとか、友達だとか、環境の変化などは大変なものがあるので、単学級より複数学級のほうがいいよ、というご意見もあるし、施設の問題までいろいろと考えていただいた上での意見もいただいています。

今日はここで皆さんにご意見をいただいて、それに対してどう考えるとか明確に私や教育長がお答えするレベルではないですが、市としてある程度は、通学のケアだとか、施設の管理だとか、そういった面ではお答えできると思います。ただ、各論になってくると、この小学校はどうするという話になってきてしまい、それは今の段階でこの場で議論して

も尚早なので、いろんなご意見を聞いて判断していきたいと思っています。

市民

ビジョン案に対して賛成・反対というよりは、なんとなく私が理解しきれない部分があって、「一定の集団規模」という言葉が何回か出ているんですけども、具体的にそれは10人なのか、20人なのか、あるいは50人なのか。確かに1学年3人しかいないというのならさすがに、というのはあるんですが、例えば旭小学校だと少なくとも20人とか、多いときでも30人なんです。それはそれで、私としては適数なのかなと思っているので、「一定の集団規模」といったときのイメージが分かりません。

市長

クラスは何人がいい、というはあります。

教育長

今は、1年生については35人、2年生以上については40人が一クラスの上限です。一定規模が必要だというのは二つの面があると思うんですね。一つのクラスの中の人数ということと、学年・学校としての人数という両面があります。確かに、クラスの人数としては、少ないにも限度がありますが、今の三浦市の中では20数名～30数名がほとんどのクラスですけども、その数は、一つのクラスの人数としては多いという人もいるかもしれないけれども、ある程度いい人数なのではないかなと思います。ただ、学校全体・学年全体で見たときには、学年全体で何かする、学校全体で何かするということには、若干少ないとか、活動しにくい面も出てきているかなと感じます。規模と、人数でいうとそういうことです。

市長

教職員組合は少人数学級を進めようとしているのですが、これは決められていることなので、三浦市として少人数学級を、というわけにはいかないです。例えば、50人1年生がいれば25人ずつ2クラスに、ということ是可以ですが、34人だったら1学級になってしまうんですね。それはもう法律で決まっているので、勝手に破ることはできないんです。そうすると、複数学級になるにはある程度の50人、60人という人数が必要となりますので、将来的に子どもの数がどうなっていくのかを分析して検討していますので、その中では、教育委員会としては複数学級を進めていこうと方針を示させていただきました。

市民

文科省の基準はありますが、パブコメでも書きましたが、例えば小田原の小規模特認校とかで逆に地域の魅力を高めるような方法もあるのかなと思います。

市長

今ある学校を、無理やり50人以上とか、35人の2クラスにしなきゃいけないとか、そういうことではないです。小規模校を残すということも三浦市としては選択できます。ただ、学校の規模だとか人数とかによって先生の数も決まるし、施設への費用も決まってくるので、あまり小規模だとよりコストがかかります。財政的な面でいうとあまりいい話ではないです。学校を統合したからと言って、統合された学校の跡地をお金にするために

どうかするとか、そんな話は一切ないです。

教育長

先ほどの小田原の話は、片浦小学校という学校です。根府川という駅の近くにある学校ですが、そこはどちらかというと他の学校と一緒にしがたい部分があって、山奥にあります。ここを何とか活かすことができないかということで、小規模特認校として他の学区からも自由に入ってこれる、小規模の良さを魅力として、そういう学校に入りたい・選択したいと思う子どもについては入れる、という学校になっています。三浦と事情が違うのは、小田原の小学校というのは全部で25校あります。25校あって、その内の1校なんです。三浦にも小規模校、今は全部小規模校になりましたけれど、剣崎小学校・南下浦小学校というのは、以前から小規模校でした。その頃まだ、三浦の他の6校はまだ規模が大きくて、1学年3～5クラスあって、それなりに市内の教員の人数も多かったので、小規模校にも先生を配備できました。配備ができたというのはつまり、ある程度経験年数があって、先生としての力も十分についた教員を充てることでできたんです。今、三浦の小学校の先生を考えたときに、新しい先生もどんどん入ってきています。今でも1年間に10人近い新しい先生が入ってきているんですけど、その若い先生たちを育てる環境が十分に整いきれてない私のジレンマというか、悩ましい点があって、そういう点も併せて改善していかないと、三浦の教育の質が落ちてしまうんじゃないかという心配をしています。ですので、今回のことについては、以前市P連の講演会の時にお話したのですが、教育の質を向上させること、そして教育を充実させること、これが最終的な狙いなんです。小学校の数を3校を1校にする、4校を1校にするという、それがゴールではなくて、その後いかに学校の教育を充実させていくのかということが狙いなんです。ある程度の学校規模という話をしましたけれども、もう一つの側面は教員の数なんです。一つの学校の中にある程度の教員の数があったときに、同じ学年を複数の先生たちで持てるような状況になったときに、同じ学年というのは、同じ年齢の子どもたちを見てますから、同じような課題がある。日々の課題がある。そういうことに対して、実践の中で教えていくことができる環境ができる、そこで教員が育っていくこと、そういう教員を育てる環境というのも、ある一定規模を保つことによって生んでいくことができるんじゃないかというのも一つの側面です。

市長

必ず来る課題です、これは。今のままずっと行くということは絶対にありえません。全国どこの市町村でも必ず少子高齢化で直面する課題です。場所によっては学校を新たに作らなければいけないところもありますが、ただ三浦市の場合は、少子化が進むのが少し早いということはありません。三浦市も、潮風グラウンドは学校施設用地でした。将来的に初声地区の子どもが増えたときのために、学校を作るために持っていた土地だったんです。それがなくなってグラウンドにしたんです。

市民

三浦市も他県と同じように人口がこれからどんどん減っていくんですか。

市長

将来的に30年先は2万人台だという数値もあって、今のまま何もしなかったらそういう人口構成になっていくと思います。そのために、転入超過を目指そう、定住人口を増やそうという政策を展開しているのですが、それはすぐには効果が出ないものです。大規模な住宅開発があるとか、大きな企業が来るとか、そういったことがないとなかなか難しいです。ただ、市としては手をこまねているわけではありませんので、何とか定住人口を増やそうという政策は展開しています。人口が減るという推計は出されていて、そうならないようにとは思っていますが、毎月40～50人ずつ人口が減っていて、自然減が多いです。今は、転入転出はほぼイコールか、ちょっと転出が超過くらいです。亡くなる方が多く、子どもが生まれてこないため、自然減が多いのがどうしても課題ですね。ただ元気なお年寄りが多いです。介護保険の認定率は、お年寄りの人数が多い割には高くはないです。

市民

知り合いの方に、小学校についてのビジョン案が出てますよと世間話をしたら、「ありがとうございます」と言っていたんです。私何かと思ったら、「引っ越します。今アパートに住んでいて、これから子どもを小学校に入れるので、その話が分かって良かったです。それだったら、違う市に家を買って住もうかな」と言われてたんです。これはちょっとまずいなと、これから真剣に考えていかないと本当にダメになっちゃうんじゃないかなと思って、いろんな方の話を聞き始めたんです。でもその知り合いの方の話って結構切実というか、何も決まっていない状態で、例えばこれからバス代がかかるとか、子どもたちが3年生・4年生になったときに学校が移りますとなるんだったら、小学校1年生になる前の今のうちに引っ越しするというのは、これは自分でももしかしたらそう考えるかもしれない、というのがありますので、そう考える保護者の方って結構いるのかなと思います。その知り合いの方はこうも言っていました。「三浦は観光に来るところかな。住むところじゃないな」ってボソッと言われてたので、ぜひ市の方にも考えていただかないと、と思うのですがいかがでしょうか。私はかなりショックでした。

教育長

どうしても小学校の数が少なくなれば、通学の距離が延びてしまうのはゆるぎない事実だと思います。そして通学にバスを使うとすれば、お金の部分の負担も生じてくると思いますが、その点は今後の課題と言いますが、前回もお話ししましたが、それは地域協議会の方で十分に話をしていくし、市長も最初にお話ししたように市として考える部分もあるので、市との調整もしていくことになります。もう一つ大切なのは、統合することがゴールではないと話をしましたが、その後にどういう教育が待っているのか、子どもたちがそこで今まで以上に自分の能力を発揮できる、成長できる、そういう環境を作っていくという意気込みを持っていなければいけないと思っているし、そういうことを示していかなければいけないと思っています。それを、小学校と中学校の9年間で、その子の成長を小学校の先生たち・中学校の先生たちが見ていけるような学校の体制を作っていく。あとは子どもたちの学び、将来・未来を生きる子どもたちのために主体的・対話的な深い学びを作っていく、授業の中で実現していくということがうたわれていますが、そういう授業を作

っていくためには、当然、先ほども言いましたが教員の質を高めていかなければならない。こういった取り組みをしながら、負のイメージを払拭していきたいと思っています。

市長 今言われたような「引っ越します」と言われる人は多いですか。ショックですね。

市民 ショックですよ。とてもショックです。何も言えませんでした。みんな好きでここに住んでいるので、そう言われるとさすがにショックでしたし、これは重要な話だと思いました。ただ、逆に前向きな方もいて、これはチャンスじゃないのかという方もいました。ここでみんなが議論して考えて、もう1回学校について見つめ直すチャンスじゃないのかなと話されていました。PTAの活動もそうですが、例えばポイント制にして、卒業式の席の順番をポイントが高ければ前の方にできるとか、そういった特典をつけないとなり手が少ないですし、こういった打合せに無理して来ていただいたり、嫌々ながらも役員をやっていたり、というのが現状です。市長がよく言われる「人よし、食よし、気分よし」の頭の人よしの部分を強く打ち出していただいて、子育て支援や移住計画とは違うのかもしれませんが、「三浦市の学校はこんなに素晴らしいんだよ」というのをもっとアピールするといいと思います。

市長 特色ある教育だとか、三浦らしい教育という打ち出しはしています。具体的に進めているのは海洋教育です。ただ、海洋教育を受けたくて転入してくる人はまだいません。三浦らしい教育として、海洋教育とか、特色ある授業とか、三浦の学校に来るといいよと思ってもらえるような教育体制を作っていかなければいけないのは、先ほど教育長が言ったとおりです。言葉で表すのは簡単ですが、漠然としていてイメージが湧きにくいので、それを分かるように現実にしていかなければならないのが課題です。学校の適正化を進めていく中で、変に意見がぶつかるとか、猛反対にあって前に進まないとか、そういうことにはしたくないと思っています。多くの意見を聞いて、もしかしたら多くの意見を聞くことによってまとまらないかもしれませんが、やはりご意見として受け止めていかないと、それに対する対処もできません。

市民 今回のビジョン案で私もいい機会だなと思うのは、小学校って避難所になるけど、それを知らない人が実はいたりして、一方、仮に統廃合をした場合、統廃合された方の学校の建物がそのまま残れば避難所までの距離は変わらないのでその点はいいと思います。ただ、実際に身近な生活圏の中にある小学校という地域のシンボルみたいな役割を考えたときに、できるだけ避難所であるとか、保護者が集まる場所だとか、そういった使い道もあるので、私自身の考え方としては、なるべく学校として残せるなら残した方がいいと思います。ただ、実際にそれが難しいようであれば、避難所としてとか、社会教育的な観点から体育館を利用できるとか、そういった仕組みを残していく方が、コミュニティの核としては最低限継続していけるのかなと思います。

市長 先ほど申し上げたのは、施設を優先するわけではないので、この施設を残すために学校を統合するという考え方ではありませんということです。例えば統合されて残った施設をどう活用するかはまた別の議論になりますので、避難所として残すにしても管理がありますので、それはなかなか難しいかもしれません。今回の学校の適正化に関しては、その後の活用について議論してもらう場ではないと考えています。それは地域の方々の意見を聞きながら、政策的に判断していくことになります。

市民 協議するにしても、協議に参加する人たちが、小学校がなくなった後に自分たちの生活にどういった影響が出るのか、それを踏まえてちゃんと議論しないと、「なくなっちゃった、でも実はあったほうが良かった」ではなく、なくなることによって何がどうなるかも含めて協議してほしい。

市長 その点をこの学校教育ビジョンの議題に混ぜて議論するつもりはないです。学校の子どもたちのためにどうするか、という観点で結論を出して、残った施設をどうするかは、その後に地域や地元の方たちと相談して市が決めていく話だと思っています。いろいろなご意見はあると思いますし、ご意見は賜いますが、学校教育ビジョンと残った施設の活用については切り離して考えないと収集がつかなくなります。

市民 今の段階でどの学校を残すとかは決まっていないのですか。

市長 一切決まってません。子どもたちの通学を考慮しなければいけないし、学校の施設の関係も考慮しなければいけないし、そういったことはこれから練っていきます。

市民 クラスを増やすことありきのビジョン案ですが、逆に小規模校の良さはどういった点だと思いますか。教育ビジョンだと、三崎地区も1中学校に1小学校みたいに最終的には書いてありますけど、そこまでやらなくても、まだまだ小規模校の良さを生かした教育があると思います。例えば先ほど海洋教育の話をされていましたけれど、畑の授業を1、2、3年生と6年生がやっています。最大で45～46人、2クラスあったときに面倒見たことがありますけど、クラスが増えれば畑を増やさないといけないかなとか考えますし、せっかく三浦で暮らすからこそ畑での授業とかができるじゃないですか。そういうのをもっと積極的に行ってもらって、人数が少なければ面倒も見やすいですよ。2クラス別々にやってしまうと、学校のカリキュラムとか、時間を使うとか、梅雨時期だと予定していた日に雨が降って次に延期になるとより人数が増えて対応しきれなくなりますので、小規模校は小規模校の良さがあるんじゃないかなとずっと思っています。先生たちが困っているときは、PTAに限らず、保護者になるべく応援するようにはしています。今のこのままの学校が続けばいいなと思っている一人です。中学校の統合の時、上原中と三崎中の統合の時は、保護者、卒業生、在校生、いろんな人からいろんなことを言われました。「何で統合に賛成したんだ」と、皆さんから言われました。だから、あの時火消しに回った相当な

労力、ものすごく大変でしたので、今回も「実はもう決まっているんじゃないですか、答えがあるんじゃないですか」と言いたくなるほど、勘ぐってしまっている部分もあります。

教育長

小規模校の前に、中学校の統合について私もずっと関わっていたので少しお話をさせていただくと、中学校については平成19年に三浦市の学校の適正規模・適正配置に関する基本方針を定めて、それに基づくものです。中学校というのは教化担任制です。その教化の免許を持った先生が担任しています。その強化の専門性が保てなくなったら統合を考えましようとなり、当時の三崎中学校もその状況になってしまったので、その基本方針に基づいて進めました。なので、今回とは進め方が違います。そういった点では、市民の皆さんの声を十分に聞き切れなかったという反省点はあるかもしれません。基本方針を示しながら、理解をしてもらいながら進めるという点は、結果不足していたかもしれませんし、一部の市民の方に負担をかけてしまったのは反省です。今回については、今後の小学校のあり方というのはどうあるべきなのかを示しながら進めます。もちろん、このままでもいいという考え方があることも承知しています。私も小規模校の校長をしていましたので、小規模校の良さを生かしながらどう学校経営をしていくかを考えました。もちろんそういう良さはあります。子どもたちのために畑のことを教えていただいていることも承知していますし、そのためには1クラスのほうがやりやすいのもよく分かります。地域との繋がり、地域と連携しながら教育を充実させていくという視点では一つのあり方だと思います。なのでそれを否定するものではありません。ただ、やはり今後の児童数の推移ですとか、最初にもお話しした教員の質をどう保っていくか、これも大きいと思っています。それらをトータルで考えたときには、このビジョン案のような方針とすることが大切なのかと考えています。小規模校の良さを認めてないわけでもないし、十分に分かっています。ただ、子ども将来を考えたときにはどうあるべきか、これを示させていただきました。

市長

それぞれ3つの地区で小中一貫教育というのを打ち出していこうとしていますので、教育の質を上げなければいけないというのも一つのテーマにあります。小規模校のメリットはもちろんありますし、それを取り入れた形での新しい仕組みを考えなければいけないと思っています。現状の小学校の体制で、一つの小学校で1学年4クラスになるとか、5クラスになるとか、そんなことはないです。それを考えると、子どもたちのことを考えると、ある程度人数がいた方がいいだろうと考えています。

市民

平成28年にやったアンケートは、また行う予定はありますか。

市長

今の時点では、地区懇談会ですとか、学校の現場ですとか、いろんなところで意見を集約する仕組みは作るつもりですが、アンケートをもう一度実施するということは具体的には計画していません。必要であればやるようになると思います。

- 市民** できれば生徒を含めてアンケートをしていただけるといいと思います。これまでは保護者と教員のみですね。
- 市長** 子どもからアンケートを取るという案はどうですか。子どもたちが自主的に考えてくれるといいのですが。
- 市民** 私個人的にはすごく聞いてみたいです。キーポイントだと思います。自分の学校に対する愛着もありますので。もちろん、最終的には子どもの意見に振り回される必要はないと思いますが、将来的に、地域に対する思いとか、学校に対する思いとかって、こういったことで引っかかるのかなと思います。地域の大人とか、保護者がちゃんと自分たちのことを大事に思っ
て議論してくれたんだなって思えば、将来ここに帰ってきてくれると思うんです。一度三浦から出ていくのは、それは仕方ないと思います。ただ、自分たちを大事に思っ
てちゃんと考えてくれたっていう思いは、小さいながらも子どもたちの心の中に刻まれると思います。
- 市長** 対象は中学生ですか。小学生だと自分の意見にならないですか。
- 市民** ちゃんと意見は出ますよ。小学生でも、5年生・6年生になれば、自分たちの持っている意見、考えをちゃんと出す子はいっぱいいるので、できれば小学校から私はやっていただきたいです。あっと驚くような、私たちが気づかないような意見が出てくると思いま
す。
- 教育長** イエスカノーかということではない聞き方にしないといけないです。子どもたちの判断材料がないじゃないですか。そこをどう見極めていくか。数字だけが出てきてしまったときに、それに振り回されることがあってはいけないと思っています。もちろん大人のアンケートも十分に考えて答えていただいていると思っていますし、だからこそ数字は重要な
んだろうと思いますが、子どもの場合、大人に比べてどうしても判断材料は少ないです
し、判断能力が不足している面がありますので。
- 市民** 抽象的でもいいと思います。「今の小学校好きですか？」とか、そういう抽象的な質問でもすごく意見が出ると思います。
- 市長** そういった考えがあることを今日聞けて良かったです。各地区懇談会で意見を聞いたとしても、地域の意見は、おそらく学校を残してほしいという意見がほとんどだと思っています。ですので、保護者ですとか、皆さんのような、学校・子どもたちに近い方が中心にな
ってくると思います。
- 市民** 質問です。2年間協議してきてなぜ7年後に決まったのですか。今年生まれた子どもた

ちが当事者になることが関係しているからですか。それと、既に統合している学校があるわけですから、そのメリット・デメリットについて、先生たちの間で情報共有とかはしているのでしょうか。

教育部長

なぜ7年後かについてですが、今後6年間については人口の推計が分かるというのが一つの大きな要因です。各学校の子どもの数がどのように変化し、中学校区の人数がどう変化するのかが分かります。ビジョン案にもありますが、残念ながらどの地区についても児童数は減少傾向にありますし、新入学児童数が一桁という学校もあります。

市長

転入・転出は考慮していないです。現状の子どもたちの実数を把握できるのが6年間ということです。10年間というスパンもあると思いますが、あまり長くしても結局期限ぎりぎりまで何もしないとか、そういったことにもなりかねませんので、スケジュールをきちんと決めて検討しようということで、この年限に決めました。明確な根拠というのは、子どもたちの実数をつかめている範囲ということです。それから、メリット・デメリットについては、各市の状況などについて教育委員会で情報収集していますし、県教委とも相談をしながら進めていく内容ですので、そういった情報はきちっと持つようにします。

教育部長

実際に、小学校の統廃合をしている自治体を訪問していますので、そこで得た情報をお話します。

教育総務課長

メリットとしては、統合後に、今回のビジョンでも打ち出した小中連携を進めたことで、学力の向上が見られたということがありました。もちろんやり方にもよりますので、統合するから必ずそうなるわけではありません。デメリットとして一番大きいのは通学の距離の問題だと思っています。安全性の確保ですとか、皆さんも心配されている交通費の問題ですとか、そういったことは避けられない問題ですし、それらを解決するのが大事なことだと思っています。

教育長

今のことは、市町の事情によって取り組みが違います。いろいろな情報を集めながら三浦市にとってどの方法を取り入れるのが一番いいのかというあたりも検討していきたいと思っています。

市民

学力の向上が見られたと言われていましたが、それは各学校で通常行っているテストでの結果が向上したのか、先般実施された全国一斉学力テストの結果なののでしょうか。あちらこちらから聞こえてくる話だと、例えば受験生は、受験には関係ないだとか、成績には関係ないからいいやだとか、そんな形で試験を受けている子もいるみたいです。三浦市は割と点数が低いと言われますが、そういうテストではなくて、学校単位で必要な授業の成績が上がっているのですか。

教育総務課長 今言った学力向上というのは、全国的に行っている学力学習状況調査のことです。

教育長 学力学習状況調査というのは、あれが全ての学力とイコールかと言えばそうではないです。あの問題の構成というのは、これから子どもたちにとって必要な考える力だとか、課題に対しての考え方だとか、どう道筋を立てて考えていくことが必要なのかとか、そういうことが盛り込まれた問題になっているので、イコールではないけれども、「あれは参考にならない」というものでもないで、一つの尺度にはなるかと思います。6年後は、市内8校のうち7校が全学年1クラスになってしまう状況です。保護者からすれば、児童が少なくなる学校に入学するのか、この先どうなっていくのかと、すごく不安になると思います。

市長 さっきも話しましたが、このビジョン案がマイナスイメージで出てしまうのが本当によくないと思っています。マイナスイメージで捉えられないようにしなければいけないです。

市民 市P連としての意見も文書で出していますが、パブコメに対する意見についてなんかも含め、できるだけ丁寧に回答していただくと、マイナスイメージみたいなものが払拭されていくことになるのかなと思います。ただ「こうしていく」だけだとフワッとしていて、じゃああの部分はどうなの、この部分はどうなのって、漠然と不安が広がってしまうと思います。

教育長 まさしく先ほどの市外に転居したいという方は、こちらの意図を十分に伝えきれてないんだなと反省します。今言ったように、説明する機会が必要ならば、どんな集まりであっても、100回でも200回でもするつもりでいます。やはり、きちんと伝わっていないことが、こちらとしては「まだだな」と思うところもありますので、こういう場がまた必要だということであれば、今日はトーク&トークなので市長が中心ですけれども、教育委員会に聞きたいということであれば、説明するつもりでいます。

市民 もちろんデメリットは伝えてほしいですが、市長が言われた夢のあるような話が聞きたいです。私は小学校が東京でしたが、1300人でした。今思うと楽しかったですね、運動会するにしても何をするにしても活気があって。そういうイメージでいると、今の三浦の小学校の運動会は、少ないな、寂しいなと感じますね。

市民 中学校の給食って今はあまりないですよ。三浦市はそれをやっているので、それは強みですよ。

市民 中学校の給食があるから三浦市に引っ越すという方がいるのは聞いたことがあります。そこはすごい強みなんじゃないかなと思います。1点聞きたいことがあるのですが、教育

長から、9年間で小中の一貫教育をされるという話がありましたが、現時点で、例えば中学校の先生が小学校に出前授業に行くとか、逆に小学校の先生が中学校に行くとか、そういった取り組みは行われていますか。

教育長

やっています。初声小学校と初声中学校で、初声地区は1小学校・1中学校となっていますので、中学校の理科の先生が小学校に行って授業をしている、といったことはやっています。その結果、中学校入学前に、先生が入学してくる子のことをよく知っているし、子どもたちも先生を知っている、だから安心できる。こういったこともあって、初声小学校・初声中学校については、これから取り組もうとしていることの先進事例としていこうという考えを持っています。今まで理科でやってきましたが、それほど数を増やすことは難しいですが、体育ですとか、英語ですとか、この辺は今年度中に取り組んでいこうかなと思っています。そのためには、教員がほかの学校に行って指導できる時間を確保しなければいけないのですから、当然教員の数も必要になってきます。今はかろうじてできています。こういってはおかしいですが、中学校の先生は教科担任制ですので、空き時間もありますから、工夫していけばこういったことも既にできています。ただ、もっとできるようにしていくためには、教員の数をやはり確保する必要があります。今は定数で学校に来ていますが、プラスαで教員を足すことができないかと、県の教育委員会と話をしています。こういったことをしながら、環境を整えていきたいなと考えていますし、そういったことを積み重ねながら、良さを示していきたいと思っています。

市長

皆さんのような経験を重ねている方々の意見は非常に貴重ですので、ぜひまた次の機会を作っていただければと思います。私がいる・いないは別にして、教育の関係は教育長に聞いていただければ大丈夫ですが、大きなビジョンなどは市で考えなければいけないので、答えを出しやすい環境で次の機会を作ってください。

市民

市が動いてくれないと変わらない、単Pでは力不足でできないことって結構多いので、そういったメリットも打ち出した方が理解してもらいやすいと思います。例えば、歩道の拡張とか、県土木の立ち会いは単Pではダメでした。私は交通指導員をやっているので三崎署にも頼みましたがそれも無理でした。だったら三浦市がバックにいないで先頭に立って、そういった交通安全面、単P自らではできないものを、市の方で積極的に動けば、それがプラスに働くと思います。南小については歩道が狭いです。昔は自転車が通っていてももっと危なかったんですが、小学生・中学生と一緒に登校するのに、二人横に並んで歩ける歩道はありません。県土木、警察に私から言ったのですが、「それはあなたから言われても動けない」と。だったら三浦市から言ってもらえばいいのか、ということがありました。各地区で子どもの飛び出し注意とかやっていますが、みんな単Pでやっているはずです。そういうところから三浦市が先頭に立って、子どもの安全を確保するために三浦市は動いていますよと、そのためにこういう活動もどうですか、という方が、今やりたいことを打ち出すよりも単Pが抱えている問題を踏まえて動いてあげた方がいいと思います。

やはり市の力って大きいのですし、子どもの安全っていうのは親からすれば一番心配なので。

市長

わかりました。

本日はありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。